

もうすぐ、東日本大震災から10年を迎えます。震災により亡くなられた方々へ改めて哀悼の意を捧げます。そして、被災されたすべての方に心からお見舞いを申し上げます。

あれから間もなく10年、当時多くの宿泊客が当館までたどり着き、電気も暖房も入らず余震が続くなか、お客様の安全を確保しながらロウソクの灯りで食事を提供したことが思い出されます。十年一昔と言いますが、復興が進み、土地が整備され、新しい建造物が建てられ、津波による大きな被害があったことは、少しずつですが目に見えにくくなってきています。元号も令和に変わり、新しい時代へと社会も移り変わっています。

一方、災害はその後も増え続け、熊本地方を震源とした最大震度7の平成28年熊本地震、北海道胆振地方中東部を震源とした最大震度7の平成30年北海道胆振東部地震では北海道全域で停電が発生しました。また、災害は地震に限らず、台風による洪水・土砂災害や火山の噴火などの大きな自然災害が発生しています。2019年10月の令和元年東日本台風では、関東地方や甲信地方、そして東北地方宮城県でも記録的な大雨と河川の氾濫により、甚大な被害をもたらしました。

当館では、東日本大震災前までは火災を想定した避難訓練を実施しておりましたが、この後は火災に限らず、上述した自然災害を想定することも必要と考えるようになりました。

まず、第一に帰宅が困難になられた宿泊客への対応として食料・飲料の備蓄、第二に電気・水道・ガス等のライフライン、並びに携帯電話・インターネッ

ト等の通信が復旧するまでの対策、第三に発災後の情報収集と提供、情報連絡のあり方が重要であることを認識させられました。大地震や豪雨などの自然現象は、人間の力ではくい止めることはできません。しかし、災害による被害は、私たちの日頃の備えによって減らすことも可能です。当館では、発災時の宿泊客の安全な避難誘導は当然ながら、その後の避難生活までを見据えた避難対策と宿泊客への迅速な情報提供方法を再構築し、宿泊客と従業員の命を守ることに最大の気を配っております。

災害は、地震・津波・噴火・豪雨・洪水などの異常な自然現象や大規模な火事や爆発が原因で被害をもたらしますが、東日本大震災の津波による福島第二原発事故の放射性物質の大量の放出も災害に加わりました。そして、ご承知のとおり今年「新型コロナウイルス感染症」が発生しました。本来、感染症で片付けてしまうところですが、感染症拡大という事象から宿泊客と従業員の命を守るという観点で言えば、これも「災害」と捉えることができます。

当館では宿泊客と従業員の健康と安全を考慮し、定期的に従業員全員のPCR検査を実施している他、頻繁に手が触れる箇所や備品の消毒、飛沫防止ボードやフェイスシールド、ソーシャルディスタンスによる飛沫感染防止対策を徹底しています。宿泊客にもご入館の際に体温を確認、館内でのマスク着用と手指のアルコール消毒のご協力をお願いしております。

今後、どんな種類の災害であっても、宿泊客と従業員に寄り添い、災害に対して備えをしておくことが危機管理と考え、努力していきたいと思っております。

○訓練の様子



○新型コロナウイルス感染症防止対策